

昭和53年度 和歌山県文化功労賞

ひろ はた いく た ろう
廣 畠 幾太郎 (号 鋤和)

住 所：和歌山県田辺市

出 身 地：和歌山県

生 年：明治23年

◎業績及び経歴

幼少の頃、父から日本画を学び、のちに北野恒富氏、西山翠山氏に師事した。

大正10年頃よりいけ花を始める。

昭和2年～3年に、いけ花講習会を開きつつ、田辺市から新宮市の写生旅行をされこの紀南百景のうち25点を昭和4年陛下南紀行幸のおり献上、いまでは貴重な資料とされている。

この時、いけ花が風景の表現がないことに気づかれ盆景花を考案、広田流家元を創立、大阪朝日新聞、サンデー毎日、京都新聞などに連日掲載され京阪神に普及した。

また、昭和25年「花語らず」と題し妙心寺花園大学文庫、同37年「禅心禅話」が春秋社よりそれぞれ単行本として出版され、広田流がアメリカへも紹介された。

戦後サンケイ新聞主催百人展では15年間連続出版、50人展にも同じく撰ばれた。

当流展示会は46回におよぶほか県展いけばな部審査員、日本いけばな芸術協会評議員、元県華道連盟会長を歴任、昭和47年に田辺市文化賞を受賞されている。